

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田 真依 年齢 10歳 職業・学校名 木杉田小

わたしは、東日本大震災のとき、私は6さい
 なので、ほいくしょにいていました。ほい
 くしょには、たくさんの子どもがいたので、
 みんな、地震がおきたときは、みんなて泣き
 さけんだ。そして、泣きさけんでいるときか
 ら30分たちました。そしてみんなの親がま
 ぐえにきました。そして、私のお母さんがま
 ぐえにきた。かえるとき、ほいくしょのかべ
 をみると、むびがたくさんはいていました。
 家に帰ったと家のちかくのどうろに、大き
 なむびがはいていてビックリしました。家
 の中にはいると、ぐちゃぐちゃにな。ていて
 またビックリしました。夜になりお父さんが
 がえってきました。そしてきゅうはごんき
 がきえました。なので私たちは、おばあちゃ
 んのしんせきの家にとまりました。その日は
 あまりねれませんでした。地震が4年すぎに
 なるのにまたあのことをおすねることはでき
 ないし、たくさんの人がなくなってしまった
 のもおすねられません。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 後藤 千弘 年齢 15 歳 職業・学校名 原町高校

あの日は僕は友達といっしょに帰る途中に激
 しい揺れに襲われました。その揺れは素人だ
 人強くなり、僕の目の前には、近くにあって
 家の瓦が落ちてきました。すぐに僕は瓦が落
 ちてくる家から離れたが当時五年生だった僕
 には何がおきているのかわかりませ人でした。
 そのあと揺れは弱くなってきました。でも余
 震が続いていたので僕はどうやって帰ろうか
 なやんでいるとなぜかお兄ちゃんが来てく本
 きました。なぜ来てくれたか聞いてみると、心
 配して来てくれたそうです。おかげで家に帰
 ることができました。

その次の日から家の中でやることができなく本
 を読んだりしていました。一日がすごく長く
 感じました。

今は少しづつですが復興が進んできている
 と思います。ここからは、電車が原町から相
 馬までしか通っていないのでもっと通ってほ
 しいです。そして人が賑わう街になてほし
 いと思います。

(20文字×20行)

氏名 鈴木 希美 年齢 6 歳 職業・学校名 白河市立白河第三小学校

わたしが2さいのたんじょう日をむかえて
すぐ、ひがし日本大しんさいがはっ生しまし
た。わたしは、おかあさんといえにいて、ひ
るねをしていたじかんでした。まだ小さくて
はっきりとおぼえてはいませんが、しょっき
だながたおれ、さらがぜんぶわれたり、ガラ
スがわれたりしていえの中がめちゃくちゃに
なりました。そのあともなんどもじしんがあ
って、みんなでいえのそとにでました。ゆき
がふって、さむい日でした。いえの中がひど
いじょうきょうだった[◇]ので、みんなでおばあ
ちゃんちにとまりにいきました。いえの水が
とまってしまい、おみせには、パンやたべも
のがないじょうたいでした。おとうさんはガ
ソリンスタンドにガソリンがなく、ふそくし
ていることをおしえてくれました。いま、か
そくで白かわにすめることが、とてもしあわ
せなことだとおもいます。
じしんはいつおこるかわからないので、ほ
うさいバックをよういして、じしんにそなえ

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡辺 悠希 年齢 12歳 職業・学校名 杉田小学校

ぼくは、東日本大しん災が起きたときは、
 一年の最後のときで、ちょうど、下校してい
 たころでした。そのとき、もう一人の友達
 と、一緒に歩いていました。そして、大し
 ん災が起きたとき、パニックになってしま
 いました。しかし一学年上の先輩に、
 「ここにおいでし」と
 と声をかけられて、家に入らせてもらいまし
 た。その後、家に帰ると、たけど、お母さんが、
 帰ってこなくて、心配してしまいました。
 このことがぼくは、まだ、津波の被害で、復
 興できていないところはまだあります。
 だが、そのためにも、福島が、会津が、
 新潟のみんなが、協力しあって、復興させ
 てゆくことが、とても大事だと思いました。
 ぼくたちが大人になるときには、復興が、
 すすんで発展した、福島になってほしい
 と思います。
 福島の未来のためにがんばりたいと思いま
 した。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 柳沼 志希 年齢 12歳 職業・学校名 杉田小学校

東日本大震災体験と復興への想い

柳沼 志希

平成二十三年私が八才の時東日本大震災が
 起きました。その時私は帰って来ました。そ
 してとつぜん大きな揺れがきてとても怖く
 りました。私は近くに住居の人に助け
 てもらいました。中れがおちまり家までま
 て帰りました。その日はお母さんが仕事休
 みで悲しくてお外にまてました。家までの長
 い道にはがれまがいはいて住居の人が外
 に出てました。その夜住居セーターや車で
 ね宿りした事もおぼえてます。あの事は
 今でも記おくに残っていてとても心に体験
 してました。平成二十三年三月十一日という日は
 今でも忘れがたき事、とおぼえてると思
 います。

今から復興への想いは、津波で家がなくな
 り仮設住宅に住んでる人へこれからでも復
 興できると思うのでこれからの二本松に住ん
 でいる人達をも、笑顔にしていきたいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 萩原 千尋 年齢 12歳 職業・学校名 木ノ田小学校

「私が体験したことと復興への想い」

3月11日、私は当時一年生でした。五校時のお帰りがした。いつものように友達と、帰っていました。

「もうすこしで二年生だね。」

など、春休みが終わり、てからの新学期のことを話していました。友達と楽しくおしゃべりをしてしていると…がたがたと家の窓が動きはじ

めました。最初、私は風がふいているのかなと思いました。でも風はふいていません。そ

して強くやれました。やねかわらも落ちそう

で、家の中から犬をだいて外に来た人もいました。私は、パニックじょうたいになりました。その時友達に呼ばれて安全な所へ逃

げました。これが私の体験したことです。

たまによしんがあるときまた、大きい地震が来るのが怖くなります。復興への想いは、

はやく故しの線がなくなつて、安心して福島

の食べ物食べられるようにと想っています。

そのために私も福島のために役立ちたいです。

(20文字×20行)

今から5年前、ぼくが1年生の時に東日本大
 震災が起きた。ぼくは、ちょうど家に帰る所
 でした。そして家からちんくらの時、急に
 地面がゆれ、ほかの家のかわらがつぎつぎと
 落ちていった。その時、みくちゃんのお母さん
 がみんなをまとめていました。そして家にも
 どると、家の中が、ごちゃごちゃになってい
 ました。テレビはたおれてこわれていました。そ
 して家から出て外を見たら、お父さんやお母
 さんがいきました。そしてその夜は、電気がつ
 かないのでろうそくを立てておきました。そ
 の夜はこわくて、少ししかねむれませんでした
 でした。そして学校は、3日間休みでした。ほか
 には、車にガソリンを入れるのも大変だった
 し、食料もなかなか買えませんでした。とく
 に、命にかかわることがおきたのは、電子カ
 発電所(原発)が爆発して放射能がもめて、
 だいたい300kmまで広がってしまったこと
 です。そして復興への想いは、放射能を気に
 しないで安全に過ごせる福島になってほしい。

「東日本大震災の体験談と復興への願い」応募用紙

氏名 周田 優貴 年齢 12 歳 職業 〃 学校名 二本松市立杉田小学校

ぼくは、東日本大震災の当日は、学童にい
 て本だなの本が落ちてきて非常用の電気がつ
 いたことが覚えていて学童の中はき横と先生
 方が判断したのびバスの中に全員でいたこと
 と木がななめになっ ていていまにもたおかえ
 うになっ ていたことは、分かります。家では
 電気がとまっ て夜はろうそくでいってごは人は
 はあちやとの実家だいてもらっ ていたこと
 もあります。電気がもどっ てもテレしひをつけ
 るとほとんどがニュースで地震の情ほうでし
 た。このよつをニュースを見るしまたいつ地
 震がおきるか心配でした。また、お母さんとた
 ちは、一つのバツクに家の大切な物をまとめ
 ていたこともありました。

今進むべき未来は、いよ、世人作業やがれき
 のて、きよなどをして他の県などから福島県
 はすごいなまろで震災がおきる前みたいたと
 違われるようにして東日本大震災のことは、
 その人の心の中でわすれないうつにすればよ
 いと思ひます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤 未来 年齢 12 歳 職業・学校名 二本松市立杉田小学校

東	日	本	大	震	災	が	あ	っ	た	こ	ろ	私	は	、	ま	だ	、	2		
年	生	で	し	た	。	地	震	の	こ	と	が	よ	く	分	か	ら	な	か	。	
た	と	思	い	ま	す	。	で	も	、	今	、	震	災	の	こ	と	を	考	え	
る	と	、	少	し	怖	い	で	す	。	初	め	て	の	大	地	震	で	し	た	
。	そ	の	後	も	、	学	校	の	校	庭	で	遊	ん	だ	り	、	学	校	の	
。	コ	ー	リ	に	入	る	こ	と	が	で	き	ま	せ	ん	で	し	た	。	教	室
の	中	で	遊	ぶ	こ	と	し	か	が	き	ま	せ	ん	で	し	た	。			
。	私	は	、	東	日	本	大	震	災	を	機	に	、	地	震	に	対	し	て	
。	び	ん	感	に	な	っ	て	し	ま	い	ま	し	た	。	気	づ	く	人	と	、
。	気	づ	か	な	い	人	が	い	る	、	震	度	1	の	ゆ	れ	も	、	す	ぐ
。	に	気	づ	き	ま	す	。													
。	私	が	毎	朝	登	校	し	て	く	る	道	に	も	、	東	日	本	大	震	
。	災	の	影	き	よ	う	で	、	ひ	び	が	入	っ	て	し	ま	、	て	い	る
。	道	が	あ	り	ま	す	。	そ	れ	は	、	1	つ	の	道	に	1	つ	の	ひ
。	び	で	は	な	く	て	、	1	つ	の	道	に	い	く	つ	も	の	ひ	び	が
。	入	っ	て	し	ま	っ	て	い	ま	す	。	ひ	び	の	間	か	ら	草	な	ど
。	が	生	え	て	き	て	い	る	と	こ	ろ	も	あ	り	ま	す	。			
。	東	日	本	大	震	災	で	今	も	、	自	分	の	家	に	帰	れ	な	い	
。	人	達	が	い	る	の	は	残	念	で	す	。	震	災	で	せ	く	な	ら	な
。	た	人	達	の	分	を	毎	日	を	楽	し	く	住	ん	だ	い	た	い	ひ	です

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 松本 望里

年齢 12 歳

職業・学校名 杉田小学校

私の、東日本大震災の体験談はあの時私は
 小学校1年生でした。まだ、1年生だ。たの
 で地震というのが分かりませんでした。その
 時は、1年生と2年生は一緒に帰っていました。
 た。なので私は、現在中学1年生のすみかち
 ゃんと帰っていました。少しより道をして、
 坂を上がると、とっぜん窓がゆれてガタガタ
 がタガタとゆれる音がしました。びっくりに
 して私とすみかちゃん、坂を下りました。す
 ると、すみかちゃんのお母さんが来て、車に
 乗せてもらいました。しばらくして、家に帰
 るとしんぼっちでした。何をして良いのか分
 かりず家の中に入るといろいろな物が落ちてい
 ました。二階に行くと机がびっしりくっつい
 ていて入れませんでした。みんなが来るまで
 外で待っていました。
 復興への想いは、もとももどっても良いけど
 そのことを忘れないということが大切だと思
 っています。だからこのことをちゃんと心の
 中に刻んでおきたいです。これで終わります。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私が東日本大震災のときの体験は、とにかく
 ゆれていたことがわかったのです。それにそ
 の時震災。と言うのがわからなくてな人が、
 た人だろうと思いました。また、今の状況は
 建物かくされたところもいるいるなあ。てい
 るけどなあ。ていがないところもある人です。
 これからの復興は、私たちにできない人
 びすけどでも私たちにもできることは、応援
 することです。例えば、
 「かんぱれ、かんぱれ。」
 と言うことです。また、こうやって作文に書
 いて手紙などでその働いている人に読むという
 ことです。ほかにもこうゆうことがい、思いあ
 ります。
 このように今の状況からはとてもじゃない
 けどためなのでこれから私たちにできる復興は
 応援と作文などに書いて読むことです。なか
 らこのように東日本大震災の体験談と復興の
 想いはこうゆう風にかれはすごくいいいと思
 います。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 松井菜々美 年齢 12歳 職業・学校名 杉田小学校

東	日	本	大	震	災	が	起	こ	っ	た	の	は	私	が	小	学	1	年		
生	の	時	の	冬																
私	が	歩	い	て	家	に	帰	っ	て	い	る	時	に	と	っ	ぜ	ん	ゆ		
れ	た																			
一	緒	に	帰	っ	て	い	た	人	は	泣	い	て	い	た						
私	は	こ	ん	な	に	大	き	な	地	震	が	来	た	こ	と	が	初	め	て	だ
っ	た																			
地	震	が	起	き	て	か	ら	の	事											
電	気	は	付	か	ず															
売	っ	て	い	る	物															
は	少	な	い	な	ど	不	便	な	感	じ	だ	っ	た							
テ	レ	ビ	で	の																
ニ	ュ	ー	ス	で	も	と	て	も	悲	さ	ん	な	福	島	が	映	し	出	さ	
れ	て	い	た																	
し	か	し																		
今	は	少	し	づ	っ	も	と	の	福	島	に	も	ど	り						
つ	つ	あ	る																	
が	れ	き	も	な	く	な	っ	て	き	た										
今	は	全																		
々	震	災	の	き	ょ	う	ふ	は	な	い										
み	ん	な	の	笑	顔	も	増													
え	て	き	た	よ	う	に	思	う												
こ	の	よ	う	な	悲	さ	ん	な	こ	と	は	こ	れ	か	ら	先	起	き		
な	い	で	ほ	し	い															
こ	の	東	日	本	大	震	災	の	時	に	生	ま	れ	て	い	な	か			
た	人	に	も	教	え	て	あ	げ	る	こ	と	は	大	事	だ	と	思	う		
そ	れ	が																		
で	き	る	こ	と	の	一	つ	に	な	る	の	で	は	な	い					
か	と	思	う																	

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 相馬 伊吹 年齢 11 歳 職業・学校名 杉田小学校

しん災から4年9ヶ月がたちました。私は
 あの時は、まだ1年生でした。
 私は、あの時、学童保育で、宿題をしてい
 ました。するととつ然、大きなゆれが来まし
 た。最初はテーブルの下にかくれていたけど、
 あまりにもゆれが激しいので、外に出ました。
 外は雪が降っていて、とても寒かったです。
 家に帰っても、電気もつかないし、水道も使
 えないうし、テレビもつかなくなったりして、大
 変だ。たことを今でも覚えています。
 しん災の復興への想いは、しん災直後は、
 外で遊ぶなかつたり、運動会ができなかつた
 り、サークルに入れなかつたりして、あまり楽
 しめませんでした。今は、少しずつしん災前
 みたいにもどっているけど、まだ完全にはも
 どっていません。私の復興への想いは、しん
 災前みたいにもどるように、ゴミをひろつた
 り、放し電線かけ、二層高いところには、あび
 ないように対策をしてそうじをしたり、小土
 い事からでも始めていきたいと思いました。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 橋本 大 年齢 12 歳 職業・学校名 杉田小学校

僕は、あの時下校の途中でした。用水路の
 水や、電柱が横にゆれていました。一緒に帰
 っていた友達としゃがんで、ゆれが少しおさ
 ま^{てから}たら歩いて自分の家に帰りました。家に
 帰ったら、僕のおばあちゃんが外に出ていま
 した。玄関の物が、いっぱい落ちていて、中
 に入れないくらいでした。僕が、一年生の時
 はまだ、地しんという言葉が分からなかつた
 ので、なぜゆれたのかということも知りませ
 んでした。僕が一年生の3月11日の夜、停電
 になりみんなが集まり、少しワクワクしてい
 たけれど、今思うと、地しんでせくな、た人、
 津波でせくな、た人、原子力発電所が爆発し
 ひなんしている人達の思いをしたら、小さか
 ったよはいえ、少し恥しくなりました。
 早く除染が進み、自分の家に帰れる人が多
 くなればいいと思います。また福島でつくら
 れている野菜や果物、そして米が放射能の検
 査をしなくても、全国の人が安心して食べら
 れるようになることを願っています。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 浦拓真 年齢 11 歳 職業・学校名 二本松市立杉田小学校

ぼくは、東日本大震災がおこったときは、学
 校から帰っているときでした。じしんがおこ
 ったときはとってもびっくりしました。まわり
 をみると電柱がゆれていました。とってもこ
 れかったです。ぼくは、家が近くだったので
 走っていきました。家にたえると、お母さん
 は、たおそれそうなものをおたえていました。
 家が止まらなかったです。ぼくは、その時
 1年生だったのであまりじしんというものか
 らわからなくてこれかったです。おねえちゃん
 は、学校についてランドセルがおちて来たとい
 っていました。その夜は、まど近くで寝まし
 た。くつ下をはいたりして、すぐにがらなる
 ようにしました。

これから復興への想いは、できるだけ、福
 島をじとせんして、20年ぐらいには、なみ
 えなどに入れるようになるとおもいます。工
 いしは、くらやぐちがけど、白人白人な
 あせばいいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 渡加 叶 年齢 11 歳 職業・学校名 杉田小学校

わたしは、この東日本大震災のとき、まだ
 一年生でした。学校の帰りで車に乗っていた
 ら、何だか、とても大きくゆれて、お母さん
 は、「ハンドルがとられるぞ」と言っていました
 た。わたしは、この時、一年生だったの
 で、地震というものを知らなかつたです。この後
 家に行くと、ドアが開かず、中に入れま
 せんでした。数時間後、や、と開いて、中
 に入れました。でも、家の中は、かびよ
 うかいるんなどころにころか、たりし
 て、ぐちゃぐちゃでした。電気、水道、
 ガス、金でか使えなくなっていました。
 一早く回復したのか、おばあちゃんの家
 だ。たので、そこで、一、二カ月は過
 ぎしました。学校にも行けなくなり、
 行、たとしても、マスクをして、校庭
 では遊べないじょうきょうでした。今
 では、運動会も外でできるよ
 うになりました。たし、校庭でも遊
 べるようになりました。わたしは、一
 生、この東日本大震災の3月11日
 を忘れないと思ひます。

氏名 奥達 菜帆 年齢 27歳 職業・学校名 杉田小学校

私は、東日本大震災、3月11日のとき、
 小学2年生で、「学童」という児童しせつに
 いました。じしんがきたとき、先生が「机の
 下にかくれて」といって、みんないっせいに
 机の下にかくれました。時計は止まり、本が
 なはたおれてきて、とてもごめか、たです。
 まが小さくて一年生だ、たので何も知らなく
 て、「ママ、1111」と心のゆで言、ていまし
 た。地面はゆれて、なんでゆれてるの？とこ
 ても不思議に思いました。ゆれがおさま、た
 ので、先生の指示で、外に出て、外では雪が
 3、ていきました。私は大泣きしました。一人の
 いっもやさしくしてくれる先生が私に声をか
 けてくれて、た、そしてくれて母心しました。
 みんなで長い毛布を頭にかぶり、おおかえか
 くるのを待、ていきました。ママか向かえにき
 て、みんなを待ちあわせしてママ、1111。
 私、弟の家族で、家に帰りました。家に帰る
 と血はわけていて、たなの上の物はあちてい
 て、とてもぐしゃぐしゃでした。ごめか、た。

(20文字×20行)

僕は、震災が来た時、学童(学童保育所)にいました。いつれと同じように学校がおわり、宿題をしていました。地震は、ありましたが二人になっても強い地震は、初めてでした。地震がおきたあと、いすの下にかくると、窓のガラスが割れて、本棚がたおれてアゴクニわか。たのを覚えていきます。その後、外に出ると、3月なのに雪が降りました。僕は、地震のえいきどうかはわかりませんが、雪が降。た二とにはじめてもおどろきました。

家に帰ると、いつれの家ではありませんでした。いろいろな物が下におちて、散らかっていました。電気もつかせませんでした。

次の日、僕は、家族で買い物に行きました。行くと、商品が、店の外に出されて売らなくなってしまいました。がソリンスタンドに行くと車が列をつくら、混雑してしまいました。しかも、少ししか入れられませんでした。

僕は、2011年3月11日は、おそろいを感じた、大騒ぎだと思います。

匿名希望

地しんのあ。た日
地しんのあ。た日、私は、2年生でした。
下校して、がくどうに入る時でした。宿題し
ているときに、いきなり地しんがきました。
先生が、
「私の下にかくれてい
と言いみんな泣いてばかりでした。本だなの
本は全部おちてたいくんでした。たぶん、み
んなは心の中に不安があ。たと思いました。
地しんが終わ。てちよ。としたら、お母さん
が車に乗。てきてくれました。お母さんにあ
たら、なぜか安心していました。
家に帰。て来ても、電気がつきませんでし
た。どうしたらいいお母さんまよ。ていたか
もしれません。お父さんが日高電設で働いて
いたので、お父さんがず。と帰。こ。なく。て
どこもさびしか。たです。その日のつとは、
ず。とたれないと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 野崎 恵理

年齢 13 歳

職業・学校名

東中学校

私	は	地	震	が	あ	っ	た	時	学	校	か	ら	帰	。て	い					
た	の	車	の	中	に	い	ま	し	た	。	二	年	生	だ	。	私	は			
信	号	が	揺	れ	て	る	。	え	。	な	ん	で	。	と	い	う	こ			
と	し	か	思	っ	て	い	ま	せ	ん	で	し	た	。	私	は	。	大	き	な	
地	震	を	体	験	し	た	の	は	こ	の	日	が	初	め	て	で	し	た	。	
家	に	帰	る	と	。	家	の	屋	根	の	か	わ	ら	や	玄	関	に	あ		
た	棚	な	ど	い	は	た	お	れ	て	い	て	。	内	に	入	る	こ	と	が	
で	き	な	い	状	態	で	し	た	。	外	に	出	る	と	。	あ	ぶ	な	い	
と	言	わ	れ	た	の	で	。	車	の	中	で	ラ	ジ	オ	を	聞	き	な	か	
ら	適	し	ま	し	た	。	予	備	が	備	わ	り	。	い	つ	大	き	い	地	
震	が	く	る	か	わ	か	ら	な	い	と	い	う	恐	怖	で	い	。	ば	い	
ま	し	た	。	落	ち	っ	く	ま	で	は	。	す	ご	く	時	間	が	か	か	
り	ま	し	た	。																
生	活	が	戻	っ	た	後	。	テ	レ	ビ	な	ど	で	た	く	こ	の			
津	波	の	映	像	を	見	ま	し	た	。	私	た	ち	が	住	ん	で	い	る	
所	口	。	津	波	が	来	ま	せ	ん	。	で	も	。	津	波	で	家	が	流	
さ	め	た	り	。	家	族	が	い	な	く	な	。	た	り	し	て	し	ま	う	
の	ほ	と	て	も	つ	ら	い	か	る	。										
今	も	。	命	守	り	に	た	く	て	い	る	人	が	い	る					
の	で	そ	の	人	守	り	の	た	め	に	何	か	し	た	い	と	思	い	ま	す

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 坂本龍光

年齢 13 歳

職業・学校名 東中学校

僕は、五年前に当、東日本大震災の時に
 もうすぐ三年生になるに予定して、僕も、その
 の時に見籠りラフに行きました。最初、友達
 と体育館の小さいホールで練習をしていました。
 た。そして、耳をたたく音が聞こえて、
 「何か、揺れているのか？」と、みんなの口から
 声、が聞こえた。そして、何分後、震度7
 の超大地震がおきました。そのときは、見籠
 りラフの中で、おぼろげに感じました。そして
 して、先着者が、かたし、僕たちと一緒に、
 動いてくまきました。あの時は、本当に、
 シンパシイでした。
 二つ目は、家庭の事です。僕は、東日本大震
 災が起きた後、家に帰ると、電気が、
 止まって、壁に、かたし、揺れて、お
 ぼろげに、電気が、かたし、大震でした。そして、
 乙、お風呂と、お風呂と、お風呂と、お風呂と、
 でした。あの時の大震災、お風呂、お風呂、
 でした。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 我妻 歩美 年齢 12歳 職業・学校名 白河市立東中学校

3月11日のあの日、私たちは、小学2年生
 だった。授業が終わり、ていて、児童クラブ
 に向かっている時、突然大きな地震が起きた。
 その時私は、4人の友達と一緒にいた。大き
 なゆれを感じた時、道路の前の家に過んでい
 る大人の人が、「さっちにおいで」と言、てく
 たさり、ゆれがおさま、てかう、また注意し
 なから歩き出した。児童クラブについてから
 も、机の下にもぐり、お家の人をむかえにく
 るのを待、ていた。このようなとても怖い体
 験があり、地震がくると「大丈夫かな」となど
 心配してしま、う。その時、原子力発電所での
 事もあり、も、と怖くな、た。だから私は、
 将来、10年後... 20年後もこのような事がもし
 もう一度あ、つたとしたなら、子どもたちのた
 め、人間のために、私ができる事を一生懸命
 にやり、未来への復興を目指してや、ていき
 たいと思、う。もちろん、今から出来る事も、
 明る、い、楽し、い、福島県が、また少しづつ見
 え、てくるのを願、っている。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中島 光 年齢 12 歳 職業・学校名 東中学校

2011年の3月11日、僕が2年生の時、東
 日本大震災が起きた。僕はその時歩いて自童
 館に向かっていた。最初はただの地震だと思
 い、ふざけて遊んでいました。しかし、自童
 館に着いたら、ようやく大変な事になってい
 ると分かりました。着いたらすぐにお母さん
 がやってきてすぐに家に帰りました。そして
 ら、水などがなくて、じいちゃんの家泊
 まりました。じいちゃんの家は水や、電気も
 使えないので、苦勞させ人でした。テレビを
 覗つけて見ると津波がきて家などが流さ
 れていました。これを見て僕達が住んでいる
 場所はたいしてひどくないと分かりました。
 家が流されたりして、住む場所が無い人は
 仮設住宅に住んでいます。今も住んでいる人
 がいると分かったら驚きました。津波の被害
 など震災の被害にあった人は早く普通の生活
 に戻って、快的な生活を送ってほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 飯屋 鉄

年齢 12 歳

職業・学校名 秋田県立東中学校

あのととき僕は二年生でした。あと少しで
 帰るときに小さな地震がおきました。その時
 は、あまり地震が最近をいので少し驚きまし
 た。でも次の瞬間それ以上に驚くことがおき
 ました。とてもおおきい地震です。この地震
 がおきたらすぐに机の下に潜りました。とて
 も長い地震だ。たので机の下でいつ終わるの
 かな？とドキドキして待っていました。地震
 が終わると校庭に全校生が整列してりました。
 他の学年や僕の学年でも泣いている人がた
 さんいました。僕はあのとときはとても怖い思
 いをしました。そのせいで、小さな地震でも
 少し怖くなることがあります。そして学校が
 お休、お家に帰ると、いっばいのお皿が割れ
 ていました。これほど被害がでてくるとは思
 ってもいませんでした。そして僕のお姉ちゃん
 さんがその日に、卒業式を引いてくれたと思うの
 で、とても心配でした。だからキウエーのよう
 なとても怖い災害はおきてほしくありません。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
 氏名 藤田 美羽太 年齢 17 歳 職業・学校名 白河市立東中学校

5年前東日本大震災がまじ、その時は、
 友達と帰っていました。車の中にいてもその
 時の揺れはすごかったです。ほかのXたちは
 学校に入らしてはいますが、ほとんどの友達は車で帰
 っていたので家に帰っていたので家にいくと
 トビラが壊れてしま、たりあいたりしてすご
 く揺れが大きいのがすぐに分かりました。
 家にすぐ前にあるほかの家の人も車を揺れて家
 にすぐ前に走ってきているのが分かりました。
 家にいたらす、きょりも揺れが強くて、て
 いるのもすぐにおがりました。並、ているの
 が出まなく、て何かは、うかま、たりして立
 っていました。夜もねるとき予震がけ、こ
 うがきねるとま、とでした。朝は、別の家
 があるので、テレビや食べ物もその家に物、
 と移動しました。学校は休校、たので良かった
 そうです。いとこの家はぶじでいたほくの家
 は2階の部分がこわれてしまいました。でもあ
 りんが直してしまいました。
 ほくは5年前の大震災のことを忘れません。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 金澤 菜寛 年齢 12 歳 職業・学校名 白河市東中学校

私	は	、	震	災	が	あ	っ	た	時	は	小	学	二	年	生	で	し	た	。
帰	り	の	会	が	終	わ	り	、	外	に	出	た	時	に	「	ガ	ラ	ガ	ラ
ガ	ラ	」	と	大	き	な	地	震	が	あ	り	ま	し	た	。	学	校	内	に
い	た	生	徒	が	全	員	来	て	一	ヶ	所	に	集	ま	り	地	震	が	お
こ	ま	る	の	ど	ま	、	て	い	ま	し	た	。	私	は	、	初	め	の	て
体	験	だ	っ	た	の	下	泣	き	く	す	れ	て	し	ま	い	ま	う	て	し
た	外	、	な	ん	と	か	こ	ら	え	ま	し	た	。	ゆ	め	が	弱	ま	っ
て	ま	た	こ	ろ	に	お	ん	な	下	先	生	も	つ	い	て	家	に	帰	っ
て	行	き	ま	し	た	。	家	の	中	は	皿	が	何	枚	も	、	な	ご	な
に	な	っ	て	い	て	、	タ	ンス	や	扉	が	す	へ	て	あ	っ	て	い	っ
て	、	本	や	ア	ル	バ	ム	な	ど	は	全	部	あ	っ	て	い	て	家	が
メ	チ	ャ	ク	チ	ャ	で	し	た	。	今	は	す	こ	く	安	定	し	た	生
活	を	お	く	っ	て	い	ま	す	が	、	食	べ	物	も	水	も	放	射	線
下	あ	ら	な	く	、	ア	ニ	ヒ	ニ	下	も	表	り	切	れ	て	し	た	。
あ	れ	か	ら	五	年	か	す	ぎ	、	今	思	い	出	す	と	す	こ	く	こ
わ	く	感	じ	ま	す	。	こ	れ	か	ら	も	地	震	は	お	こ	る	か	も
し	れ	ま	せ	ん	。	ま	た	、	震	災	で	死	ん	だ	人	も	家	が	流
こ	れ	た	人	も	い	ま	す	。	今	は	、	そ	ん	な	人	た	ろ	の	復
興	を	願	い	た	い	と	思	い	ま	す									

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三森 星奈

年齢 13 歳

職業

学校名 東中学校

私	は	東	日	本	大	震	災	を	体	験	し	て	、	す	ご	く	お	そ		
ろ	し	「	も	の	だ	」	と	思	い	ま	し	た	。	当	時	の	私	は	小	
学	2	年	生	と	い	う	幼	な	い	時	季	で	し	た	。	母	の	で	、	
こ	ん	な	大	き	い	揺	れ	の	地	震	を	経	験	し	た	の	は	初		
め	て	で	し	た	。	学	校	で	、	避	難	訓	練	を	し	て	い	て	も	
実	際	に	地	震	が	起	こ	る	と	、	パ	ニ	ッ	ク	状	態	に	な	り	
「	お	か	し	も	」	を	守	り	な	か	っ	た	り	し	ま	し	た	。	同	
い	学	年	の	子	だ	ち	は	、	お	な	な	が	泣	い	て	い	て	、	自	
分	も	不	安	に	な	る	ば	か	り	で	し	た	。	地	震	が	お	さ	ま	
る	と	、	家	族	と	家	に	帰	り	ま	し	た	。	き	ち	ろ	ん	私	の	
部	屋	は	本	棚	や	机	の	上	か	、	教	科	書	類	が	は	ら	け	に	な
り	、	散	ら	か	っ	て	い	ま	し	た	。	そ	れ	か	ら	は	、	電	話	
も	つ	な	が	ら	ず	、	ず	と	車	の	中	で	生	活	し	て	い	ま		
し	た	。	ガ	ソ	リ	ニ	も	母	と	て	、	ガ	ソ	リ	ニ	ス	タ	ン	ド	
は	、	車	の	行	列	で	し	た	。	そ	し	て	、	一	番	困	っ	た	の	
は	、	水	が	な	い	こ	と	で	す	。	お	風	呂	や	ト	イ	シ	に	行	
け	な	く	て	、	す	ご	く	困	り	ま	し	た	。	ま	た	、	食	べ	物	
な	ど	も	な	く	て	、	コ	ン	ド	ニ	キ	、	き	ち	ろ	ん	、	売	。	
て	い	ま	せ	ん	で	し	た	。	こ	の	た	う	に	、	つ	ら	い	思	い	
を	た	く	さ	ん	し	た	の	で	、	こ	の	日	は	忘	れ	ま	せ	ん	。	

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大竹 和摩 年齢 12歳 職業・学校名 東中学校

僕は、東日本大震災の時は2年生でした。あの時はリコーダーを持っていた時にいきなりとても大きな音が聞こえたらとても大きく揺れたのでとてもおどろきました。最初は何かもないかなと思いましたがとてもすごい揺れたので机の下にもぐりました。そのあとは、校庭に行きました。でもまだ揺れていたのでもとてもおれなりました。みんなの母親や父親がむかえにきていました。僕は父親が迎えにきました。そのときおれなくて、家は大丈夫かなと思いましたが、たのび心配でした。その時は家にお兄ちゃんもいたのび本当に心配をしてくれました。家がくずれたらどうしようなのび心配もありましたが、くずれなくてとてもよかったです。東日本大震災はつなめて家を流された人もいますのでとてもいやな思い出です。3月11日のあの悲劇は絶対に忘れてはいけないうちのたてを思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 吉田 光華 年齢 13 歳 職業・学校名 白河市立東中学校

僕が東日本大震災を体験したのは、二年生の
 の三学期に家に帰って宿題をしていた時に、
 大きく地面がゆれ、おいらちゃんとい、しょ
 に外に出てしゃがみました。この東日本大震
 災は印象に残りました。そのあと、家に入り
 ました。家の中の物はい、ばいとおれていま
 した。キッチンはお皿がい、ばいおれていま
 した。そのあと、親が帰ってきて、店に行っ
 て、色々がものを買ってきた。それは、
 家に水や電気がこが、たからです。そのあ
 とは、電気や水は来るようになりました。あと、
 色々と物がたおれた物は、がおしました。電
 気や水が来るようにな、た、で、風呂をおかし
 たり、テレビを見るようにな、たので、安
 心しました。また大震災で電気や水が使えな
 くなった、色々とい、て人にか、る、ので大震
 災は、おきがい、ようにしてほ、い、です。東日
 本大震災では、お、か、み、か、流、れ、死、ん、が、お、も、い、る
 ので、今後は大震災がお、こ、ら、か、い、よ、う、に、し、て
 ほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐久間 絢千 年齢 13 歳 職業・学校名 東中学校

3月11日のあの日、突然大きな揺れが生
 じ、私は不安と恐怖におそわれました。当時
 の私は小学2年生で、まだ心も身体も幼い頃
 でした。何が起きているのかもよく分からず、
 ただただ泣いていたことを覚えています。あ
 んなにこわい思いをし、不安でい、ばいにな
 り、たのは初めてでした。地震がおさまると、
 学校へ父が迎えにきて家に帰りました。家に
 着けば少し安心できるだろうと思いきや、家
 を見てとてもびくりました。かわらは落
 ち割れていて、食器棚はたおれ、皿がほとん
 ど割れていました。私の家はぐちゃぐちゃに
 なっていました。電気はつかず、水も流れな
 い。ますます不安が大きくなりました。でも
 家族みんながそろそろ、たときはとても安心し、
 家族の大切さを感じました。

あれから数年がた、た今でも、震災の影響
 で申くえ不名の人や家が流されてしま、た人
 などがたくさんいます。私はその人たちのた
 めに少しでも力になろうと思います。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 金澤小倉来 年齢 13歳 職業・学校名 東中学校

私	が	小	学	二	年	生	の	の	と	き	に	東	日	本	大	震	災	が		
お	こ	り	ま	し	た	。	私	は	こ	お	く	て	た	ま	り	ま	せ	ん	で	
し	た	机	の	下	に	も	ぐ	。	て	い	る	と	。	「	じ	り	じ	り	じ	
り	」	と	べ	ル	が	な	。	と	ぞ	。	と	こ	ま	し	た	。	教	室	が	
し	全	部	荷	物	を	持	っ	て	校	庭	へ	走	っ	て	に	げ	ま	し	た	
先	生	た	ま	は	。	生	徒	の	親	に	電	話	を	し	て	。	次	々	と	
友	達	が	帰	っ	て	い	ま	し	た	。	私	も	お	父	さ	ん	が	来		
て	家	に	帰	る	こ	と	が	で	き	ま	し	た	。	と	い	る	が	家	の	
へ	い	は	く	が	れ	て	い	て	。	け	ん	が	人	を	あ	け	る	と	。	
お	花	が	入	っ	て	た	ひ	ん	も	わ	れ	て	い	ま	し	た	。	私	の	
机	の	上	は	。	教	科	書	や	ノ	ー	ト	や	ぐ	く	し	ゃ	く	し	ゃ	で
し	た	。	ク	ロ	ー	ゼ	ィ	ン	を	開	け	て	み	る	と	服	か	ど	い	さ
。	と	滑	ち	て	ま	し	た	。	ま	た	。	コ	ン	プ	や	お	血	が		
入	っ	て	い	る	と	い	る	も	ぐ	し	ゃ	く	し	ゃ	で	。	大	変	で	
し	た	。	水	も	出	な	か	。	た	の	で	井	戸	水	を	使	い	ま	し	
た	。	私	は	初	め	て	大	地	震	を	体	験	し	た	の	で	。	。	。	
て	も	こ	お	が	。	た	で	す	。	東	日	本	大	震	災	は	。	た	く	さ
ん	の	ん	の	命	を	う	は	。	た	の	で	。	悲	し	い	て	す	ま	た	
こ	の	よ	う	な	体	験	を	し	た	の	で	。	3	月	11	日	は	絶	対	
に	忘	れ	て	け	い	け	な	い	を	思	い	ま	す	。						

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 斎藤 大夢 年齢 13歳 職業・学校名 白河市立東中学校

僕は東日本大震災を経験したとき、小学校
 二年生で小学校にいきました。廊下で兄を待っ
 ていると、突然大きくゆれだしました。兄の
 担任の先生に教室に入れてもらい、学校の校
 庭に避難しました。時間が経っても、余震が
 おさまりませんでした。接着されていいる銅像
 もゆれだし、像の部分は今にも落ちてきそう
 でした。雪も降り出し、みんなで集まり暖を
 とりながら迎えを待っていました。
 家に帰ると、事の重大さが分かりました。
 家全体に、大きな損傷はありませんでしたが
 がわらが落ちてきました。テレビをつけると
 津波で家が流されていいる映像を見ました。食
 料や飲料が無く、コンビニなどに買いに行っ
 ても何も無く残り物で補っていました。
 この震災を乗り越えて学んだことは助け合いが
 大切という事です。助け合って食料や飲料
 身の安全を確保した事があることが大切だと思
 いました。この震災、震災で学んだことを色
 々な世代の人に伝え続けたいです。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 飛鳥 和希 年齢 13 歳 職業・学校名 東中学校

ぼくは、あの時、小学二年生でした。ぼく
 は、そのときに友達二人と歩っていました。
 そして、そのとき地面が大きくゆれ渡のよう
 になりました。ぼくたちは、そのゆれでぼく
 たちは、田んぼに落ちこめてしまいました。
 そしてぼくは、体じゅう傷だらけになっ
 てしまいました。あのときのことを思うと今でも
 ゾクゾクとします。あのようなおこりがまたおこ
 ったりしたら、ほんとろにヤバイので、ぼくは
 今でも、TVやラジオの情報をいつもまきい
 ています。ぼくは、そのときに、お母さんや
 お父さんが家になか、たのて心配しました
 が、一時間後くらいに帰ってきてとてもよか
 ったと思いました。ぼくが、この地震で一番
 印象を受けたのは、福島第一原発です。この
 福島第一原発は、放射線を多く出したので、
 子供が外であそべなくなり、身体能力が落ち
 てしまいました。今後はこうならいように、
 さいぼうをきずく人になりたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 篠原 広大

年齢 12 歳

職業・学校名 白河市立東中学校

あの時、僕は小学2年生でした。リコー
 ターをもらうときに、急に地震がおきました。
 最初は自分のことを守るのに必死でしたが、
 避難訓練で習ったように外にでました。そし
 て、余震があるなかお父さんやお母さん、お
 姉ちゃんの心配をしました。その後に友達
 の親に家まで送ってもらいました。家には、お
 父さんとお姉ちゃんがいて地震でたおれた本
 棚などを片づけていました。後で聞いた話だ
 と、水槽から水や金魚が飛びでてとても大変
 だ、たとい。てました。その日の夜は、家の
 中は危険だということで車の中で寝たりしま
 した。次の日は、家の水が出なかつたので公
 民館などから水をもらいにいきました。そこ
 では地域の人達がいきました。そのとき僕は、
 「皆、僕と同じような状態なんだなあ」と思
 いました。

僕は、3月11日2時46分にあつた東日本大
 震災は絶対に忘れません。また被災地の早い
 復興を願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 角田 海登 年齢 13 歳 職業・学校名 東中学校

あのとき僕は下校途中でした。外にいたのに
 すごく揺れてびっくりしました。でも、その
 時はただの地震だと思い、普通に帰りました
 しかし、家に帰ると、テレビで地震や津波の
 被害がすごい事を知って、すごく恐ろしく、たこ
 とを覚えていきます。余震が長く続き、もう一
 度大きい地震が来るんじゃないかと数日間
 は、恐ろしくなりました。また、地震によって、
 店の品物がガソリン、水などがカメになって
 しまっていて焦りました。水は、井戸水があつた
 ので大丈夫でした。食料も家にあって、た
 んぱり配りあてませんでした。ガソリンがなくて、
 困って、突如として行けずせんてした
 お風呂は、親せきの家に行き、こゝろに入
 りました。震災は、悲しい出来事でしたが、し
 りとる場所で人が協力して、今の状況になら
 せていると思います。改めて助け合いの大切さが
 分かって思っています。でも、また安心してま
 り地域があると思えます。そういう地域が
 こゝろで早く復興できるように願っています。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 杉本 琉海 年齢 13 歳 職業 学校名 白河市立東中学校

僕が東日本大震災を体験したのは、8歳の
 時でした。その時は、地震や火災がこわい物
 だとは思、こわいと思んていました。地震が起きて
 も無類をして家族と話したりしていました。
 でも、僕が8歳の時に体験したのと同じに
 知らぬ間にぐらりの大地震が起きてました。その
 時は、地震がこわい物だとは思、こわいから、
 たのび、最初の地震の時は友達としかつりあ
 いら小学校から帰るとして、地震が本さま
 だと思、たら、二度目の予震が起きてあき
 ました。その時、僕と友達が歩いている途
 のかッリッスタンドの消火器がたんとん落ちて
 して、その落ちて消火器から白い粉が出てきて
 かッリッスタンドの倉庫が白い粉まみれにな
 ってしまいました。そして、家の天井がしおれ落
 ちていきました。友達とすこい家に帰りました。
 それたら、家の屋根紙がはがれ落ちて、植
 の中の食器が落ちて、から入かたが散って、こ
 ました。僕が体験した、東日本大震災は、こ
 う体験したことがありです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 樋口 和希 年齢 13 歳 職業・学校名 白河市立東中学校

僕は東日本大震災があつたときは、2年生
 で帰りの会をしている時にリコーダーをもち
 ってよろこんでいる時に起こりました。その
 時は、とてもゆれが激しくて、机の下にもぐ
 りこみました。余震がおさまつた少しの時間
 に校庭にすぐ逃げました。避難訓練を日程が
 らしていたので、たれもけがなく避難できた
 と思います。家に帰ると、皿がたたくさん割
 れていたり、水そうの水がこぼれていたり、
 棚がたおれていて、大変でした。テレビをつ
 けてみると、地震によつて起きた津波が海の
 近くの町などそのみこんでいく映像を見てと
 ても、おそろしかったです。今は震災から5年た
 くたちまゝか沿岸部はまだ復興が完全に進ん
 でいないところがたくさんあかりました。福
 島県では原発が爆発したりして、とても大変
 なことが起きていることが何日か知りませ
 でしたか。テレビも見ておそろしかったです。放
 射のウは、すつと残るので、きちんとしよせ
 いをしてほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 矢野 明日香 年齢 13 歳 職業・学校名 白河市立東中学校

シから五年前に起こった「東日本大震災」。津波で多くの人々が亡くなりました。現在は、復興をとりかかっている区域はあるようですが、ただ復興の足音が見えず、海やがれきにくもれていいる人々が何百人、いや、何千人もいるかもしれません。しかし、双葉未来学園という学園が建設され、また、人々の笑顔と希望がよみがえった事だと思います。

私が東日本大震災を経験したのは、小学二年生の時でした。大きな地震とともに、多くの建物やブロック塀がほんの数秒のうちにくずれ落ちていきました。その景色は今でも忘れることが出来ません。突然、私達の住む町をおそった東日本大震災。地震が起こった日から、もう五年という日々が流れていると思うと、何だか信じられない気がします。

今だ発見されない人々、いまだ家に帰ることが許されない人々。また、私達に暗い影が残っています。しかし、復興はいつか、必ずや、てくると私は思っています。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 西村 唯

年齢 12 歳

職業

学校名

河村東中学校

あの時、僕は小学二年生でした。いつもの
 ように帰る準備をして、ると、突然大きな音
 をたてて、とても大きな地震が起きました。
 周りの本だなやシートなどが、一気に崩れ
 ました。僕たちは、ひたし訓練をうけていた
 ので、全校生無事でしたが、泣いている子も
 いて、とても怖かったです。先生もとても必
 死になって、児童に指示していました。地震
 が止まっても、危険なものを机の下にもぐっ
 た後に、すぐ校庭にひたししました。そして、
 家に帰った。水そうなどが割れたりして、
 いました。家の中に入ると、とても危険な
 ところ。おぼろげに、おぼろげに外にいました。余震を
 多く、強くて、とても大変な一日でした。こ
 の日で、死んでしまった人もたくさんいると
 思います。その人たちのために、この3月
 11日を忘れないで、生きていきたいと思っ
 ます。福島原発事故などで困っている人々もた
 くさんいると思うので、はやく復興すること
 を願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 我妻佳月 年齢 12歳 職業・学校名 市河市立東中学

ぼくが東日本大震災がおこ。たときは、ぼ
 くは小学二年生でした。そのときは、家の近
 くの車の中、おばあちゃんといっしょに
 おばあちゃん人が車を運転して、ぼ
 くがおばあちゃんに、「地震」といって車を
 止めたら、ゆれが少しづつ大きくな。てまじ
 いゆれになりました。ちやうど止まった場所
 が電柱の横に止めてしまわれ、おれを思いま
 した。そして、その近くの家があり、その家
 の中からおとしようとかがでてきて、おれも
 ました。そして、その家のまをぬく家のコン
 クリートブロックが「どかー」とおれで、
 びびりおりました。また、ゆれがおさまって
 自分の家へ帰ると、玄関がぐらぐらお
 れ、はいいなくな。て、そして、おれが場所から
 はいりおふろばにいくと、おれがはいったり
 して、おれをびびりおりました。今は、こ
 れのおれは全部をおして生活をして、いま
 して今後の復興は、いろいろなところにお
 金をつかわり協力して復興をさせることです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 豪海 年齢 11 歳 職業 学校名 栗野小学校

3	・	11	の	大	震	災	時	、	ぼ	く	は	幼	稚	園	児	て	し	た	。
---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

今	ま	で	経	験	し	た	事	の	な	い	大	き	な	揺	れ	に	、	ぼ	く
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

は	飲	み	込	ま	れ	ま	し	た	。	何	回	も	、	何	回	も	大	き	な
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

地	震	が	あ	る	た	び	に	、	家	が	つ	ぶ	さ	れ	て	し	ま	う	と
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

心	細	く	も	な	り	ま	し	た	。										
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

そ	ん	な	時	は	あ	ち	ゃ	ん	は	、	「	ぼ	あ	ち	ゃ	ん	の	家
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

な	。	昔	の	家	で	柱	が	太	い	か	ら	ぜ	っ	た	り	つ	ぶ	れ	な
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

い	か	ら	大	丈	夫	。」	と	教	え	て	く	れ	ま	し	た	。			
---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--

ラ	イ	フ	ラ	イ	ン	が	止	ま	り	、	水	が	な	く	な	っ	て	し
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ま	っ	た	の	で	、	お	じ	ち	ゃ	ん	は	、	動	カ	で	電	気	を	起
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

こ	し	近	所	の	人	達	に	井	戸	水	を	わ	け	て	あ	げ	た	り	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

皆	で	食	べ	物	や	ま	き	筈	を	持	ち	よ	り	、	炊	き	出	し	を
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

し	て	く	ば	り	ま	し	た	。											
---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

が	ソ	リ	ン	か	な	い	い	の	で	お	母	さ	ん	は	、	2	才	の	妹
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

を	お	ん	ぶ	し	て	自	転	車	で	移	動	し	て	い	ま	し	た	。	
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

「	今	考	え	る	と	放	射	能	の	一	番	危	険	な	時	に	、	何	を
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

し	て	い	た	ん	だ	ら	う	ね	、	無	知	っ	て	こ	わ	い	ぬ	」	と
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

お	母	さ	ん	が	話	す	時	が	あ	り	ま	す	。						
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--

早	く	、	安	全	な	福	島	県	に	な	っ	て	ほ	し	い	で	す	。	
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

そ	し	て	、	お	い	し	い	お	米	や	野	菜	が	作	り	た	い	い	で	す	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

「東日本大震災の体験談と復興への願い」応募用紙

氏名 かんのみゆり 年齢 7 歳 職業 学校名 国見小学校

ぶくしま大しんさいのとき、わたしは2さい
 いでした。だからあまりわかりません。
 でも、おじちゃんがおしえてくれました。
 みゆうは、「だいどころでイスに上がりなかし
 にぶっしにつかまっていたと。」
 そのあとは、こわくてこたつにもぐっていた
 のをおぼえています。でんきもつかないの
 でまっくらです。
 よるになっておかあさんがむかえにきてく
 れたけど、わたしたちのへやは本はこがたお
 くれたり、2かいにあるのでこわいから、おば
 あちゃんのいえでねることにしました。
 おじちゃんは、しょうぼうだんでさんじよ
 の人のめんどうをみていたので、いえにはあ
 まりいられませんでした。
 水もでないので、さかいをつかって、さん
 じよの人にゆけてあげました。みんな、たら
 んで水をくんでいました。
 わたしも大きくなったら、おじちゃんのお
 うに、みんなをたすけたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 真ツツ 年齢 11歳 職業 学校名

観音町立観音小学校

あの日、ぼくはとんでもないことは会っ
てしまった。地面が大きくゆれ、しまといを
かくせませんでした。
3月11日の時46分、ぼくは、ようち園で
たのび、地しんという言葉というのを知り
ました。その時ぼくは、あずかりでよ
うち園にいきました。トイレに行こうと向かっ
たその時、「みんな！早くがらんへ！」ぼくは、
がらんへにげた。水そうはゆれ、電線もゆれ、
何かがゆれ、向かいにあつたUの人は、
近くはいたおばあさんを助けていました。
となりにあつた小学校の校庭へにげ、姉と
おかえを待ちました。おと、ご近所さんが
送ってくれました。
こめられた物は、1人より、いつげいいいた方
が、早く直される、つまり復興に近づいてい
くという事です。つまり、こめられた物も、み
んがで協力すれば、もつと早く復興ができる
ので、自分がいかにても大いようぶより、自
分オレなげれば直らないと思ふといひです。

あんどう ゆうま

氏名 安藤 悠真 年齢 12歳 学校名 須賀川市立大森小学校

東	日	本	大	震	災	の	日	、	ぼ	く	は	、	小	学	1	年	生	で		
し	た	。	音	楽	の	授	業	中	、	急	に	ゆ	れ	た	の	で	机	の	下	
に	も	ぐ	り	ま	し	た	。	か	べ	が	く	ず	れ	た	り	、	天	井	が	
落	ち	た	り	し	て	び	っ	く	り	し	ま	し	た	。	ゆ	れ	が	お	さ	
ま	っ	て	か	ら	、	中	庭	に	避	難	し	ま	し	た	。	す	る	と		
「	校	庭	に	避	難	し	て	く	だ	さ	い	。」	と	い	う	放	送	が	入	
り	、	み	ん	な	で	校	庭	に	避	難	し	ま	し	た	。	そ	こ	で	、	
家	の	人	が	迎	え	に	来	る	の	を	待	ち	ま	し	た	。	ず	っ	と	
待	っ	て	い	る	間	も	、	小	さ	な	地	震	が	た	く	さ	ん	あ	っ	
て	、	と	て	も	こ	わ	か	っ	た	で	す	。	家	に	帰	っ	て	か	ら	
も	大	変	で	し	た	。	食	器	が	落	ち	て	床	が	破	片	だ	ら	け	
で	し	た	。	水	道	も	止	ま	っ	て	と	て	も	不	便	で	し	た	。	
ま	た	、	原	子	力	発	電	所	の	爆	発	も	あ	っ	て	、	ぼ	く		
た	ち	は	千	葉	県	に	避	難	し	ま	し	た	。	友	だ	ち	と	は	な	
れ	て	さ	び	し	か	っ	た	け	れ	ど	、	近	所	の	小	学	生	が	や	
さ	し	く	遊	ん	で	く	れ	て	よ	か	っ	た	で	す	。					
も	う	2	度	と	こ	ん	な	災	害	が	お	き	て	ほ	し	く	な	い		
で	す	。	福	島	県	は	、	ま	だ	避	難	し	て	い	る	人	が	い	て	
復	興	に	向	け	て	取	り	組	ん	で	い	ま	す	。	ぼ	く	も	役	に	
立	て	る	よ	う	に	が	ん	ば	り	た	い	で	す	。						

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 川村 菜月 年齢 14 歳 職業・学校名 福島市立野田中学校

0897

震災が起きた5年前、私は小学3年生でした。地震がきた時は、いつもより少し大きいのかな、くらいにしか考えなかったし、家にいてもつまらないので、兄とお散歩にも行きました。しかし、テレビでこの震災の大きさを知った時、私は言葉を失いました。外は放射線が危険な状態にあること、考えられないくらい大きな津波が人々をおとし、たくさんの方が亡くなったこと。今の日本の現状を知った時、私の考えの甘さを知りました。津波やがれきの下敷きになることを考えると、地震があった時、その場所にいた人はどんなに恐怖を味わっただろうと心が傷みました。

私は去年、父と津波にあった海岸に行きました。そこには何もありませんでした。まだまだ復興は進みません。私はまたそこに人々の活気あふれる美しい町が戻ってくることを願っています。

氏名 安西 夢花 年齢 14 歳 職業・学校名 野田中学校

東日本大震災が起ったとき、私はまだ小学3年生で、教室で授業を受けていました。最初は、すぐ終わると思っ、ていました。地震はなかなか終わらず、どんどん揺れが大きくなっていき、教室のテレビや蛍光灯が落ちてきました。そして、先生の指事で、校庭に避難しました。外はとても寒く、最初は、何が起きているか分かりませんでした。お父さんが迎えに来たとき、私は安心しました。家に帰ったら、特に物が倒れてはいなかったけど、電気や水道が使えなくなっていました。そのときは、本当にうらかったです。1週間ぐらいいして、電気や水道が使えたときは、本当に安心しました。

4月から4年になり、学校に行ったとき、北校舎が使えず、体育館で授業する学年もありました。2学期に仮設校舎が、そして私達が卒業する少し前に北校舎ができました。

私は、福島が少しずつ復興していると思うので、1日でも早く復興してほしいです。

3	月	11	日	、	私	は	ま	だ	3	年	ま	の	と	き	が	し	た	。				
そ	の	時	私	は	授	業	中	で	急	に	ガ	ラ	リ	と	大	き	く	ゆ	れ			
こ	と	こ	も	怖	い	思	い	を	し	ま	し	た	。	外	に	被	なん	す				
る	と	雨	や	雪	が	降	り	、	こ	と	こ	も	す	ご	く	寒	い	思	い	を	し	
ま	し	た	。	ま	だ	地	震	は	続	い	て	お	り	、	す	ご	く	怖	く			
こ	と	泣	い	て	し	ま	い	ま	し	た	。	そ	の	後	お	母	さ	ん	が	お	も	
か	え	に	来	て	く	れ	こ	と	こ	も	安	心	し	ま	し	た	。	家	に			
帰	え	る	こ	き	せ	き	的	に	物	が	落	ち	た	り	は	し	て	い	ま			
せ	ん	で	し	た	。	ど	も	、	水	道	、	電	気	、	が	止	ま	り	と			
こ	も	大	変	で	し	た	。	水	は	近	く	に	あ	る	木	材	屋	さ	ん			
か	ら	も	ら	。	た	り	、	お	母	さ	ん	の	友	人	か	ら	も	ら	。			
て	い	ま	し	た	。	電	気	は	そ	う	そ	く	を	っ	か	っ	て	夜	を			
過	ぐ	し	ま	し	た	。	う	ち	は	電	気	が	な	い	と	料	理	が	こ			
き	な	い	の	こ	と	こ	も	困	ま	り	ま	し	た	。	な	の	こ	と	電			
気	や	水	が	使	か	え	る	よ	う	に	な	っ	た	時	は	す	ご	く	う			
水	し	か	っ	た	で	す	。															
福	島	の	復	興	は	、	ま	だ	し	て	い	な	い	と	こ	ろ	も	あ				
り	ま	す	か	、	だ	ん	だ	ん	も	と	の	福	島	に	も	ど	っ	て	ま			
を	い	る	の	こ	と	、	早	く	震	災	前	の	福	島	に	も	ど	っ	て	ほ		
し	い	と	思	い	ま	す	。															

匿名希望

東日本大震災から5年がたち復興もいよいよ
に進んでいきます。
3月11日僕は小学3年生でした。その日は
テストをかえさ来ていました。地震がくると
みんな机の下にかく来ると地震は大きくなる
いっばうでもうここで死んでしまうのかと思
うようになりました。3、4分後地震は少し
ずっおさまりまおりを見とみるとテレビやテ
スト、教下書などたくさんちらばってしま
した。学校にはひびがはいりいまにもくずれる
のびはないかと思つときもありました。外に
にげると予震が何度もありとでもこおか。た
のをいまもおぼえていきます。5分ほど外にい
るととつぜん雪がふ。ときとてもさおか、
たです。親がおかえに来て家に帰るとがス
水、電気は全部とま、ていて車のガラスが
おらも落ちておれていました。
僕はあの日をせ、たいに忘れません。
僕は震災の復興を1日でをはやく願、てい
ます。